

登戸学寮ニュース

公益財団法人 登戸学寮
〒214-0032
神奈川県川崎市
多摩区枡形 6-6-1
発行人 福島 穆

理事長随想

——新渡戸稲造に学ぶ——

理事長 福島 穆

「新渡戸稲造を勉強すれば、企業の国際化への道は自ずとわかる」

Newsweek 日本版 1989年8月10日

Newsweek 日本版 1989年8月10日

学寮が完成した頃、黒崎幸吉先生は毎月一回上京し、寮生に対して講話をしてくださいました。私は登戸学寮第一期生としてそれを拝聴する幸運に恵まれたが、特に印象に残っているのは、先生ご在学中の第一高等学校の校長、新渡戸稲造氏についての話である。私は高校時代に『英語研究』という雑誌を購読しており、そこに彼の英文の一節が紹介されていたので、名前だけは知っていた。黒崎先生が新渡戸から人格的感化を受けられたということをうかがい、その著作を読みたいと思ったものの、残念ながら当時の町の本屋には置いていなかった。社会人となって、教文館か

※ 目次 ※

- 理事長随想——新渡戸稲造に学ぶ……………1
- 寮の行事紹介……………2
- 聖書のことば(『コリントの信徒への手紙Ⅱ』二章10節)……………4
- 理事会・評議員会報告……………6
- 寮友会より……………8
- 私たちは同県人です
- 同期生消息
- 卒業生近況
- コラム 俳句鑑賞の手引き(4) 俳人(学寮員) 岸本尚毅……………10
- 感謝(六〇周年募金の中間報告)……………11
- ご案内……………11

ら全集が出版されたので、求めてそれこそむさぼり読んだ。私が特に大きな影響を受けたのは、英国の文豪トマス・カーライル(Thomas Carlyle)について学んだことである。新渡戸は札幌農学校時代に深い煩悶に陥った際、カーライルの主著である Sartor Resartus

『衣服哲学』を読んで立ち直ったのだという。新渡戸は七十年の生涯の間に四七回も読んだそうであるから、彼が如何にこの著作に影響されたが分かる。ちなみにこの書について新渡戸が著した詳しい解説が、「衣服哲学講義」という題で『新渡戸稲造全集』の第

九巻に収められている。私見であるが、日本で出版された「英文解釈研究書」でこれ以上のものを私は知らない。その『衣服哲学』のうち、深く私の心に刻まれているのは次の句である。

“Do the Duty which lies nearest Thee.”

私はこれを次のように受け止めている。「何をすればよいかわからなくなった時に、まず一番身近にある義務を果たせ。そうすれば次の義務が与えられるであろう」。

現役の時、国際化と言われる時代が到来したのだが、中南米の市場開拓に携わっていた私に白羽の矢がたち、Newsweek 日本版の記者に国際化の本質について尋ねられた。その時に私は、「新渡戸を見よ、彼の著作に国際化の何たるかは書かれている」と話

した。新渡戸は国際化について次のように記している。

“Prince Shotoku (聖徳太子) was great …… as a patriot by reason of his internationalism and an internationalist by reason of his patriotism.”

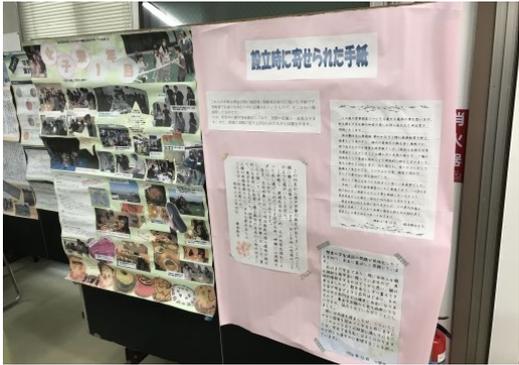
(“Japan. Some Phrases of her Problems and Development” 『新渡戸稲造全集』第十四巻所収、教文館、昭和45年、64頁)

「○○ファースト」に代表されるような自国中心主義の風潮が蔓延する昨今、我々はこの新渡戸の言葉を改めて噛み締めてみる必要があるのではないだろうか。

寮の行事紹介

◆ホームカミングデー

一月二十五日(土)午後三時より、学寮にてホームカミングデーが開催されました。寮の歴史を振り返る展示の他、秋の講演会を兼ねた寮生の発表、学寮を舞台にした架空の事件を扱ったディベート大会、学寮クイズなど、楽しい企画が盛り沢山で、あつという間の二時間でした。



企画・運営に尽力してくださった皆様、また寮に足を運んでくださった皆様、当日参加はできなかったけれども寮のことを思い出してください皆様、どうもありがとうございます。

なお、今年は「チャリティー広場」を設置したところ、おかげさまで売り上げは二二五〇〇円に上りました。こちらは全額、児童養護施設二葉学園に寄付いたしました。商品の提供と買い上げに、心より感謝申し上げます。



◆アドベント

アドベント(待降節)には、学寮にアドベントカレンダーが登場しました。それぞれの袋には日付と名前が書いてあります。中身は開けてのお楽しみです。



◆クリスマス会

一二月二三日(金)、クリスマス会を行いました。料理やデザートも準備しました。テーブルも飾られ、いつもの食堂とは少し違う雰囲気です。

気に。食後はビンゴゲームもあって、楽しいひと時を過ごしました。



◆卒寮式

二月九日(金)午後二時より、卒寮式が行われました。二〇一七年度は、男子二名、女子三名、計五名が学寮から羽ばたいていきました。式典の後は、手作りの軽食でお祝いです。



◆入寮式

四月八日(日)、男子五名の新入寮生を迎えて入寮式が執り行われました。今年度は、韓国からの留学生が三名も加わり、ますます賑やかになりました。(寮長 山吉裕子)



聖書の日本語

『コリントの信徒への手紙Ⅱ』二章10節

それゆえ、私は弱さ、虚待、危機、迫害、圧迫の中にあつても、キリストのためには満足している。なぜなら私は弱い時にこそ強いからである。

キリスト教の歴史に大きな足跡を残したパウロという人物は、その後半生を伝道に費やし、現在のトルコ半島からギリシアにかけての地域を中心に歩き回りました。その正確な総移動距離は分かりませんが、一説には二万kmを超えるのではないかと言われています。これは地球およそ半周分にあたりまゝです。このようなパウロの広範にわたる移動を可能

にしたのは、ローマ国内部に張り巡らされた交通網でした。

古代ローマには、幹線だけで八万km以上のぼる道路網が存在していました。ローマ初の人工街道は、紀元前三一二年に建設が始まったアッピア街道で、最初はローマとカプアの間を結んでいました。一日に移動できる距離は、徒歩あるいは荷車の場合、最長でも三〇〇km程度であったと言われています。

また、パウロは海路も利用していますが、当時客船は存在しなかつたため、通常は商船に同乗して移動しました。風と潮の流れにより変動はありますが、航海が可能な時期は基本

的に夏(五月末〜九月半ば頃)で、例えばローマからエジプトのアレクサンドリアまでは約一四日間、アレクサンドリアからローマまでは約五〇〜七〇日ほどかかったようです。船旅には難破がつきもので、損害の出る確率は二〇%にのぼつたとの試算もあります。

ローマへ護送される途中のパウロを襲つた海難について、『使徒言行録』二七章以下は非常に詳細に伝えていますが、それ以外にも、少なくとも三度の難船に見舞われ、一昼夜海上を漂つた経験があることが、パウロ自身の証言から分かります(Ⅱコリ一25)。

陸路も決して安全ではなく、自然環境の厳しさに加え、盗



現在のアッピア街道

賊に襲われることを常に警戒しなければなりません(川の難、荒野での難、盗賊の難。Ⅱコリ一26)。

このような過酷な旅を続けることができたパウロという人は、よほど頑健であつたのでしょうか? 自身の健康状態について、パウロは次のように語っています。

私の身に一つのとげが与えられました。それは、思い上がらないように、わたしを

痛めつけるために、サタンから送られた使いです。この使いについて、離れ去らせてくださるよう、わたしは三度主に願いました。

(Ⅱコリ一二7-8)

この「とげ」が具体的に何であつたのかは推測するしかありませんが、それが取り去られることを切実に祈らねばならないほどの苦痛であつたことは確かです。「とげ」による直接的な苦痛は、ただでさえ困難

な旅をますます辛いものにしたでしょう。また、「とげ」さえなければ、もつと精力的に活動して、今よりも成果を上げることができるのに、というもどかしい思いが精神を苛んだであろうことは、想像に難くありません。そのようなパウロの祈りに対して主は答えます。

わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ。

(IIコリ一二九)

私たちはつい、困難に遭うのは神と自分との関係性が損なわれているせいだと考えてしまいます。自分は神に愛されていません。自分は神に愛されていません。病に苦しみ、貧困に見舞われ、才能に乏しく、敵に囲まれ、友に棄てられるのだ、と。しかしパウロに告げられた言葉はその価値観を全く

逆転させるものでした。パウロが何の価値も見出していなかった弱さこそが、神が自分に目を注ぎ、自分を通して神が働いている証だということです。

ちなみにその究極の形が、十字架刑という凄惨な死を遂げたイエスです。人間の目から見れば、神に見棄てられ、何の力もなく、当時の最も惨めな方法で殺された彼ですが、実はそこにこそ神の力があらわれている、ということになります。この弱さと力のパラドックスを知ったことが、パウロにとって決定的に重要なことでした。

だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害そして行き詰まりの状態にあつても、キリストのために満足しています。なぜなら、わたしは弱いときこそ

そ強いからです。

(IIコリ一二七-10)

パウロの「とげ」が取り去られることはありませんでした。しかし、弱さが力の欠乏を意味しないこと、弱いままに、弱いからこそ、その生に価値があるというメッセージは、パウロのみならず、現在に生きる私たちをも励ましてくれるのではないのでしょうか。

(山吉裕子)



パウロの墓を祀るとされる、サン・パオロ・フォーリ・レ・ムーラ大聖堂（ローマ）のモザイク
左から、ルカ、パウロ、イエス、ペトロ、アンドレアス（パウロのみ、ラテン語だけでなく、ギリシア語でも名が記されている）

理事会・評議員会報告

1. 理事会、評議員会の開催

公益財団法人登戸学寮の臨時理事会は二〇一七年一月二五日(土)に、定例理事会と評議員懇談会は二〇一八年三月一七日(土)に登戸学寮で開催されました。以下にその議事内容について報告します。

2. 二〇一八年度事業計画、予算

三月の理事会(及びその後のみなし評議員会)で、別表(収支計算書)の通り新年度予算が承認されました。二〇一八年度予算では、六〇周年事業の収支を除いた通常ベースの事業活動を

収支がほぼ均衡することを旨としました。

収入面では、入寮者を八名(内留学生二名)、年間平均在寮生数を二七名(前年度二八名)と想定するとともに、寄附金収入を一〇〇万円(前年対比五〇万円減)と見込み、収入総額は、対前年比七七六万円増の三三三万円(六〇周年事業を除けば対前年比二二四万円減の二四三万円)となります。

他方、支出面では、可能な限りの節減努力を行うこととし、ほぼ昨年並みの二二九六万円(前年対比四〇万円減)と見込み、事業活動収支差額は、一〇四一万円(六〇周年事業を除けば一四一万円)となります。

次に、投資活動支出として、例年通り、建物再建積立資産

取得支出三七〇万円を計上するとともに、六〇周年寄付収入七〇〇万円(前年度一一〇〇万円)を、規程改正によって新設した「修繕等特定資産積立」及び「特定費用準備金」に積み立てると、当期収支差額は、マ

イナス約二九万円となります。(六〇周年関連工事については、時期は未定で新年度の予算上は計上していません。)

なお、新年度は、入寮者は、四月一日現在四名のみで予算の想定より四名減という厳しい状況で男子、女子ともに、空き室があります(計一五室)ので、新入寮生のご紹介等につき、皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

3. 特記事項

(1) 立入検査

公益法人認定法に基づき神奈川県総務局による第二回目の立入検査が昨年十二月四日に行なわれました(第一回は二〇一四年一月六日)。幾つかの改善指摘を受けましたが、全体として大きな問題はありませんでした。

(2) 内規の更新

「特定資産取扱規定」の改正、立入検査指摘事項の折込他、内規の改正を行いました。

(3) 六〇周年記念誌

六〇周年記念誌は今年一月に刊行することを目標として準備が進められています。

(4) 黒崎幸吉記念講演会

今年の黒崎幸吉記念講演会は、学寮創立六〇周年を記念して、下記の通り開催されることと

なりました。

◆日時

二〇一八年六月三日(日)

午後二時五十分

◆場所

今井館聖書講堂

◆講師

福島 穆 理事長

山吉裕子 寮長

寮生一名

(理事 小島拓人・小西孝蔵)

平成 30 年度予算案(収支ベース)

法人名:公益財団法人 登戸学寮

2018.2.20

事業名:事業全体

(単位:円)

科目	29 年度予算額(A)	29 年度実績予測額	30 年度予算案(B)	(A)と(B)の差異
I 事業活動収支の部				
事業活動収入				
基本財産運用収入	5,000	15,000	15,000	10,000
基本財産受取利息収入	5,000	15,000	15,000	10,000
入寮費収入	1,200,000	1,500,000	900,000	-300,000
入寮費収入	1,200,000	1,500,000	900,000	-300,000
寮費収入	23,850,000	22,126,000	22,400,000	-1,450,000
寮費収入(室料)	19,600,000	18,400,000	18,400,000	-1,200,000
寮費収入(食事代)	3,500,000	3,000,000	3,300,000	-200,000
共益費等寮生徴収金	750,000	660,000	700,000	-50,000
短期宿泊料収入	0	66,000	0	0
寄付金収入	500,000	12,621,000	8,000,000	7,500,000
寄付金収入(一般)	500,000	1,500,000	1,000,000	500,000
寄付金収入(60周年事業)	0	11,000,000	7,000,000	7,000,000
特別寄付金収入	0	121,000	0	0
雑収入	55,000	151,000	51,000	-4,000
受取利息収入	5,000	1,000	1,000	-4,000
雑収入	50,000	150,000	50,000	0
特定費用準備金取崩収入	0	0	2,000,000	2,000,000
事業活動収入計	25,610,000	36,413,000	33,966,000	7,756,000
事業活動支出				
人件費	83,000,000	77,500,000	89,000,000	6,000,000
福利厚生費	700,000	700,000	700,000	0
賄材料費	3,100,000	2,800,000	3,000,000	-100,000
役員会開催諸費	500,000	447,000	300,000	-200,000
会議費	10,000	13,000	200,000	190,000
バート交通費	100,000	200,000	200,000	100,000
寮生福利厚生費	50,000	50,000	50,000	0
寮生活動支援費	450,000	250,000	500,000	50,000
寮生指導費	50,000	0	50,000	0
旅費交通費	50,000	28,000	50,000	0
車両費	30,000	0	0	-30,000
通信運搬費	600,000	1,000,000	800,000	200,000
消耗品費(厨房関連)	100,000	190,000	100,000	0
消耗品費(厨房以外)	100,000	230,000	100,000	0
事務用品費	200,000	260,000	200,000	0
消耗什器備品費	700,000	680,000	500,000	-200,000
修繕費	500,000	1,200,000	300,000	-200,000
印刷製本費	90,000	400,000	690,000	600,000
方冊刊行費	300,000	350,000	350,000	50,000
講演会等諸雑費	120,000	160,000	150,000	30,000
電気代	1,500,000	1,088,000	1,200,000	-300,000
ガス代	1,150,000	595,000	700,000	-450,000
水道代	550,000	539,000	550,000	0
灯油代	50,000	35,000	50,000	0
諸謝費	200,000	0	50,000	-150,000
広報費	800,000	984,000	900,000	100,000
図書費	90,000	14,000	30,000	-60,000
防災費	300,000	210,000	250,000	-50,000
支払報酬料	600,000	650,000	600,000	0
災害保険料	400,000	470,000	470,000	70,000
租税公課	350,000	350,000	350,000	0
新聞図書費	50,000	50,000	50,000	0
諸会費	70,000	70,000	70,000	0
支払手数料	250,000	150,000	150,000	-100,000
リース料	250,000	180,000	200,000	-50,000
支払寄付金	0	25,000	0	0
雑費	700,000	400,000	200,000	-500,000
事業活動支出計	98,060,000	92,268,000	103,060,000	5,000,000
事業活動収支差額	-72,450,000	-55,855,000	-69,694,000	2,756,000
II 投資活動収支の部				
投資活動収入	0	0	0	0
投資活動支出	4,900,000	18,750,000	10,700,000	5,800,000
特定資産取得支出	3,700,000	17,700,000	10,700,000	7,000,000
建物再建特定積立資産取得支出	3,700,000	3,700,000	3,700,000	0
修繕等特定積立資産取得支出	0	12,000,000	5,000,000	5,000,000
特定費用準備金取得支出	0	2,000,000	2,000,000	2,000,000
固定資産取得支出	1,200,000	1,050,000	0	-1,200,000
建物付属設備取得支出	1,000,000	790,000	0	-1,000,000
什器備品取得支出	200,000	260,000	0	-200,000
投資活動収支差額	-4,900,000	-18,750,000	-10,700,000	-5,800,000
III 財務活動収支の部				
財務活動収支差額	0	0	0	0
当期収支差額	-26,500,000	-4,855,000	-294,000	2,356,000
前期繰越収支差額	10,680,520	10,680,520	5,825,520	0
次期繰越収支差額	80,30,520	5,825,520	5,531,520	-2,499,000

寮友会より

本号では、『寮友会ニュース』発刊時から掲載を継続している「私たちは同県人です」シリーズ

ズと「同期生消息」シリーズ、及び「卒寮生近況」シリーズをお届けいたします。

■ 私たちは同県人です ■

今回は宮城県と岡山県在住者の卒寮生の方をご案内します。現住所の上の数字は入寮年次で、入寮年次順に掲載しています。

宮城県(四名)

- 湯村正宏さん 一九六一年、角田市
- 根本道夫さん 一九六五年、仙台市
- 小杉 隆さん 一九七六年、仙台市
- 佐藤 毅さん

岡山県(四名)

- 橋内 武さん 一九六四年、岡山市
- 藤本隆史さん 一九八四年、岡山市
- 松尾恭和さん 一九八七年、岡山市
- 高橋倫常さん 一九九九年、岡山市

■ 同期生消息 ■

(一九七一年入寮)

登戸学寮の十四期生の方々の消息をお伝えします。

- 森永次郎さん 三重県東員町在住
- 平田和吉さん 兵庫県神戸市在住
- 工藤晴一さん 北海道稚内市在住
- 高田和典さん 大阪府吹田市在住
- 大方 聡さん 奈良県奈良市在住
- 江里口明俊さん 東京都品川区在住
- 古川登師彦さん 滋賀県高島市在住
- 米澤弘泰さん 神奈川県川崎市在住
- 北村 寛さん 神奈川県横浜市在住
- 佐藤政明さん 福岡県大牟田市在住

● 當 好二さん

鹿児島県徳之島町在住

● 入寮時寮長

この年の四月に村井長正先生から前野正先生に交替。

これらのデータは、全て寮友会名簿に基づいておりますが、必ずしも正確に記されているわけではありませんので、間違いを見つけた方は、寮友会会長にご一報をお願いします。

● 一九七二(昭和46)年の主な出来事

三月二六日 東京・多摩ニュータウン入居開始。



四月三日 大阪・毎日放送制作の「仮面ライダー」放送開始。

五月一四日 大相撲の横綱大鵬引退。在位五八場所、優勝三三回。



七月九日 キッチンジャー米大統領補佐官、中国を極秘訪問し、周恩来首相と会談。

七月二〇日 日本マクドナルド、一号店を銀座三越にオープン。ハンバーガー八十円。



八月一五日 アメリカが金とドルの交換停止(ニクソン・ショック)。

八月二八日 円変動相場制に移行。

九月一八日 日清食品カップヌードル」新発売。百円。



二月二日 アラブ首長国連邦、七首長国により建国。

二月 この年百万枚を超える大ヒットとなった尾崎紀世彦の「また逢う日まで」が日本歌謡大賞と日本レコード大賞をダブル受賞。



この年、ボウリングブームで日本中が熱狂。



卒寮生近況

昨年十一月に開催された「寮友会総会」の返信ハガキに掲載されていた「卒寮生の近況レポート」をお届けします。ただし、スペースの関係で到着した全員分ではない点をご了承ください。

(寮友会会長 蟹江雅彦)

◎森秀人さん(一九五八年入寮、愛媛県松山市在住)
「光陰矢の如し」で第一期入寮生である私も八十歳となりました。二年間の寮生活でしたが他では得られない大切な経験と信仰の学びをさせていただきました。

診療所を開設し精神科診療所を開業していましたが、先輩に院長を譲りました。あとは産業保健総合支援センター相談員としてメンタルヘルスの相談や教育の仕事に従事

しています。楽しそうなのでHCDの盛会と良き実りを祈っています。

◎藤田信夫さん(一九五九年入寮、山梨県北杜市在住)
ここ数年は地域の方々との交遊も深まり色々経験をさせて

いただいています。また新たに区内でのピンポン倶楽部も立ち上げテニスと両立。脚腰を鍛えている昨今であります。

◎太田禎伸さん(一九六二年入寮、埼玉県川越市在住)
登戸学寮には一九六二年から二年程大変お世話になり有難うございました。学寮を卒業して五十二年経て、年齢も七十六歳を迎え妻と二人で

細々と老後を過ごしています。学寮も六十周年を迎え、若人の楽しい学びの場所になることを祈っています。寄付も雀の涙しかできないことご容赦くだ

さい。皆様のご健康とご繁栄を祈っています。

◎尾形松壽さん(一九六四年入寮、神奈川県横浜市在住)
傘寿を迎え、身辺整理をしています。登戸学寮で得た生活習慣はその後変わることもなく続いています。朝は聖書を拝読と祈り、日曜は教会での拝礼です。晩年、充分な時間は読書に充ており、今、塩野七生の著書、ローマ史の重要性を改めて確認、彼女の深い

視点に大変敬服しました。寮生の皆さん、読書の習慣を身に付け、豊かな人生を送ってください。

◎長田 憲さん(一九六五年入寮、長野県茅野市在住)
田舎高齢者の年齢相応の生活を送っています。家庭菜園の野菜は天候にも関わらずトウモロコシ、ネギ、ジャガイモなど夏野菜、秋冬野菜も概ね良く

出来ました。これからナガイモを掘る予定です。十月は日々紅葉が変わり、畑では山を眺める時間が増えています。八ヶ岳に初冠雪がありました。

◎青木幹夫さん(一九六九年入寮、高知県高知市在住)

昨年三月に第二の職場を退職し、四月から高知県の非常勤監査員をしています。今までの仕事は常勤だったので、だいぶ楽に感じます。年相応の仕事だと気に入っています。

◎岸本尚毅さん(一九八〇年入寮、神奈川県横浜市在住)

卸電力取引所勤務。電力自由化の最前線で働いています。俳人として活動。松山俳句甲子園(全国高校俳句選手権)の審判員をつとめています。

◎安達寿彦さん(一九八八年入寮、東京都練馬区在住)

一九八八年四月から一九九二年三月の大学生活丸四年間お世話になりました。誠にありがとうございました。

ちようど一年生の一九八八

年が学寮創立三十周年だったと思い出し、自分にとつてもあつという間の三十年が経とうとしています。静岡県(清水)から上京し東京生活がスタートした学寮ですが、良き先輩同僚、後輩と出会うことができました。そうした出身地、大学も様々な人々が一か所に集まり、いろいろな経験ができたことは、振り返れば貴重な経験でした。

この場を借りて、当時の高木、大友両寮長先生、日々の食事等で浜崎さん、小野さん、林さんへお礼を申し上げます。ありがとうございます。

コラム 俳句鑑賞の手引き(4)

俳人(学寮OB) 岸本 尚毅

今回は住宅顕信(すみたく・けんしん)という俳人をご紹介します。

住宅顕信(一九六一—一九八七年)は生没年からわかるように、「墓のうらに廻る」と詠んだ尾崎放哉(一八八五—一九二六年)の末裔と呼ぶべき世代です。顕信は、中学卒業後に調理師学校に進み、働きながら詩作や仏教を学びました。通信教育で僧侶の資格を得て得度。十代で同棲を経験しています。結婚し、長男を授かりましたが、白血病に罹りました。離婚し、病室で長男を育てました。二十五歳で逝去。遺句集『未完成』の鬼気迫る作品は広く注目されました。ちなみに私と顕信とは同学年で、同じ岡山市で育ちました。

一人にひとつの窓をもち月のある淋しさ

『未完成』

二十二音の作品です。二十二音あると、個室から月を見る淋しさがはつきりと言葉であらわせます。このとき顕信は白血病のため岡山市民病院に入院していました。この句を有季定型(ふつうの俳句)に書きかえてみましょう。「月

淋し一人に一つずつの窓」。月が秋の季語です。もとの句と意味は同じですが、自由律で書く、詩としては異質なものになります。

この句のような長めの自由律作品にはほそぼそと呟くような味わいがあります。そこに作者の肉声を感じてもよいと思います。山頭火に「うどん供えて、母よ、私もいただきます」という呟くような句があります。山頭火の時、その母が井戸に入水自殺したという事実を知ると、「いただきます」という口吻が生々しい。

月が冷たい音落とした『未完成』

五七五の十七音よりも短い十三音の作品です。鋭く研ぎ澄まされた句です。肉声というより、心が捉えた気配をそのまま文字にしたような句です。肉声や生身の人間の境涯を峻拒するような鋭さを感じます。おしまいにさらに短い顕信作品をご紹介します。

ずぶぬれて犬ころ『未完成』

九音の作品です。「ずぶぬれ」は名詞であり、それを動詞のように「ずぶぬれて」と使うのは国語的には誤用ですが、そう言うのも野暮だと思っほど、詩として魅力的です。この句に季語はありません。(続く)

感謝(六〇周年募金の中間報告)

読者の皆様方へ

二〇一七年四月にスタートしました、創立六〇周年記念事業の中核の募金につきましては、延べ四四八名の方から二〇一八年三月末現在で、一四一万円に達しました。このほかに通常のご寄付が一三〇万円あり、昨年度一年間に合わせて一二七一万円に達しました。先ず以ってご報告を申し上げまして、ご協力を頂きました多くの皆様のご好意に対し厚く感謝申し上げます。厳しい環境にも拘らず学寮に對するご厚意は郵便局から送られてまいります振込票の一枚一枚を拝見する毎にひしひしと感じております。目標額は三千万円でありますので、

丁度三分の一になります。

学寮設立に当たり黒崎幸吉先生が募金を始めました時に「この人がこんなに沢山寄付をされるのは無理ではあるまいか」との感想を残しておられます。どうかご無理の無い範囲でのご協力を今後ともよろしくお願い申し上げます。当時の金額で約七〇〇万円のご寄付を頂きましたが、学寮の建設には更に七〇〇万円の資金が必要でした。当時日本住宅公団の総裁は先生の古くからのご友人である「加納久朗」氏でありました。先生は加納総裁に融資を伺いましたが、個人向け住宅の住宅公団の規定には学寮は該当しませんでした。処が多額の融資規定の最後の条項に「その他総裁がこれを必要と認めるもの」というのがありました。総裁は担当職員にその意味を尋ねたところ総裁のご一存ですとの事で公団から七〇〇万円の融資が決定したのでした。学寮の食堂に当時の総裁の写真が掛かっているのは総裁の決断に対する感謝の表明であります。学寮は初めから決して安定した歩みをしたのでありませんでした。神は必要な都度、み手を伸べられ導き給い六〇年の歩みをお支え下さいました。

募金は二年目に入ります。

誠に心苦しく存じますが引き続きのご支援をお願い申し上げます。現今の学生さんの置かれた状況は厳しく「就活」に代表されるように入学とともに就職活動準備に奔走するような状況であります。今こそ登戸学寮の存在が益々必要とされる所以であります。どうぞこの貴重な学寮の活動をお支えくださいますようお願い

い申し上げ中間報告とさせていただきます。

二〇一八年四月一二日

公益財団法人 登戸学寮

創立六〇周年記念事業委員会

委員長 大島智夫

理事長 福島 穆

寮長 山吉裕子



創立当時の学寮 (手前が北西)



開寮当時の寮周辺図

ご案内

来る六月三日(日)午後二時より、今井館聖書講堂にて、黒崎幸吉記念講演会を企画しています。

今年度は、登戸学寮創立六〇周年を記念した講演会となる予定です。皆様のお越しを心よりお待ちしております。